つたえる・ひろげる・つくりだす
高山市制施行80周年

【シリーズ80年のあゆみ】

第2章 農業

昭和11年11月1日、県内3番目の市として高山市が誕生しました。

80年にわたる高山市のあゆみを、広報たかやまではさまざまなテーマで振り返ります。

80年前の先人がこの景色を見たら

～山林や原野が今では高山の産業を支える農地として～

昔から飛騨は、土地が痩せ、農業の適地ではありませんでした
今では飛騨は、農産物のトップブランドの産地です
恵まれた自然環境と先人によって培われてきた80年の歩み
農業に注がれた御苦労への感謝の念を感じずにはいられません

（写真㊤乗鞍岳を望む上野町の上野平、写真㊦御嶽山を望む朝日町の宮之前団地）

昔の農業の様子
牛を使った代掻き（写真㊤）
家族総出の稲刈り（写真㊦）

出典　飛騨高山　明治・大正・昭和史

条件不利地の克服

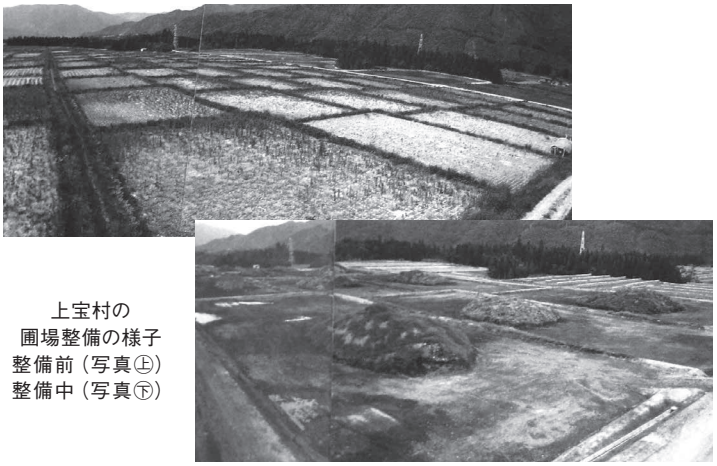
梅村騒動で有名な梅村速水（うめむらはやみ）は明治元年「飛騨は土地が痩せていて食物が足りない。国を豊かにするため、深山幽谷も田畑にしよう」との内容の勧農に関する布告を発しました。彼は大島町から水を引き、山口町に大水田地帯を作ろうとしましたが、騒動で失脚。梅村用水は未完となりました。

さて、高山市の農地が本格的に開発されるのは、食糧の自給自足が急務となった戦前から戦後にかけてです。中でも大規模な国営事業として取り組まれたのが上野平開拓（高山町、上枝村、大八賀村、丹生川村）と上宝開拓（上宝村、神岡町）です。このような国営事業は、とりわけ戦後、食糧難と引揚者の就職先を解決するため、全国的に取り組まれました。

上野平のような高台は日照条件に恵まれるものの、水がないため水田には適さず、開拓事業が着手された昭和8年は畑作が中心でした。その後、丹生川村小野から用水を引く工事が始まり昭和28年に完成。上野平で待望の稲作が始まります。

また、標高の高い高根村では、狭い土地の開拓や水を引く苦労に加え、冷害に強い品種を探し求めることや水温・地温を高める工夫の連続でしたが、先人の長い努力の末、昭和40年には野麦を除く全集落で稲作ができるようになりました。

各地で土地改良や排水事業も進められ、条件不利地だった高山の稲作のインフラが整備されていきました。



上宝村の
圃場整備の様子
整備前（写真㊤）
整備中（写真㊦）

出典　高原土地改良区設立30周年記念 拓く高原郷